

令和2年度・令和3年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校委嘱
平成30年度・令和元年度・令和2年度桶川市教育委員会委嘱
平成30年度・令和元年度・令和2年度桶川市教育研究会委嘱

研究紀要

[研究主題]

豊かな心を育む道徳教育の充実

～「考え、議論する」道徳の実践を中心として～



令和2年10月22日(木)

埼玉県桶川市立桶川西中学校

〒363-0027 埼玉県桶川市川田谷3680-1

TEL 048-787-1342

FAX 048-787-3564

桶川市教育委員会教育長あいさつ

桶川市教育委員会教育長 岩田 泉

桶川市立桶川西中学校におかれましては、平成30年度より桶川市教育委員会及び桶川市教育研究会の3年間研究委嘱、また、令和2年度より埼玉県教育委員会の埼玉県道徳教育研究推進モデル校として2年間の委嘱を受け、研究主題「豊かな心を育む道徳教育の充実～『考え、議論する』道徳の実践を中心として～」をテーマに、熱心に研究に取り組んでこられました。ここにその成果を発表されますことに深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

本校においては、道徳教育における課題を踏まえ、令和元年度からの道徳の教科化をふまえ、道徳教育に取り組んでこられました。その成果として、道徳の授業を楽しんでいる生徒が84%、物事を多面的・多角的に考えられる生徒が92%にもものぼり、道徳の授業の充実と心豊かな生徒の育成が図られてきていると推察いたします。

結びに、相澤校長をはじめ教職員の皆様のご尽力に深く感謝を申し上げます。また、研究の推進にあたり熱心にご指導・ご支援くださいました指導者の皆様、多くの関係者の方方に心より感謝申し上げますとともに、桶川西中学校の生徒の皆さんの学校生活の充実と成長を心よりお祈りし、あいさつといたします。

学校長あいさつ

桶川市立桶川西中学校長 相澤 仁志

本校では、平成30年度より桶川市教育委員会・桶川市教育研究会の委嘱を受け、また令和2年度からは「埼玉県道徳教育研究推進モデル校」として「豊かな心を育む道徳教育の充実～『考え、議論する』道徳の実践を中心として～」をテーマに特別の教科「道徳」の研究に取り組んで参りました。本日に至るまで、埼玉県教育局南部教育事務所教育支援担当 指導主事 沢口 裕 様を初め、多くの指導者の皆様方にご指導・ご助言を頂きましたことに、厚く御礼申し上げます。

本日ここに、その研究の一端を発表させていただく事になりました。本研究は本校の課題の一つである「不登校」への取り組みにおいて、道徳の授業を通して、互いに認め合い、一人一人の「豊かな心」の育成を目指すものでもあります。3年間の研究期間があったとはいえ、研究も実践も十分とは言えず、道半ばでの発表となりましたが、これで終わりとはせず、今後も子供たちのために、引き続き研究を進めて参りたいと思います。

結びに、ご多用中にも関わらず、多くの皆様方にご参会頂きましたことに心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。

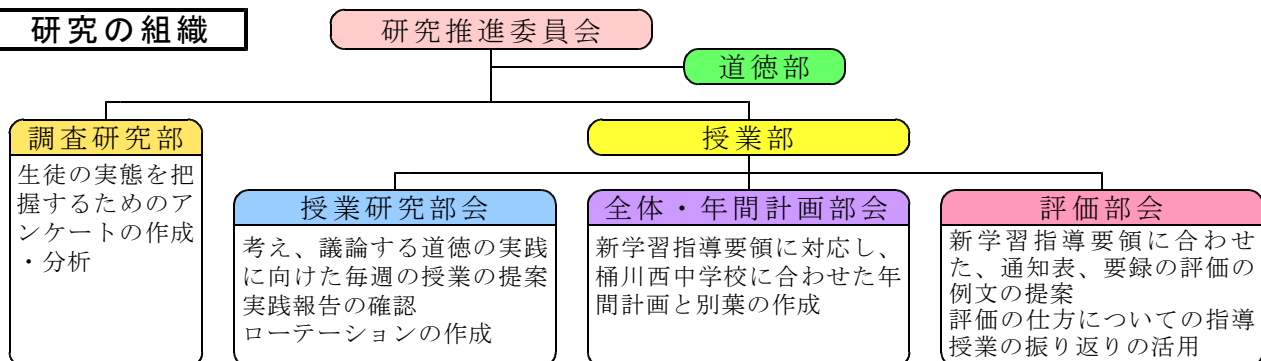
主題設定の理由

令和元年度の道徳の教科化に伴い、教員の指導力と生徒の道徳的実践力の向上を目指し、全職員で組織的に取り組むこととした。本校生徒の課題として、自分の考えや心境を自由に表現したり発表したりする姿勢に欠け、道徳の授業をはじめとする議論の場において活発な意見交換が見られないことがあげられる。この課題に対し①考え、議論することを目指した道徳の授業の実践と効果的な実施方法の検討、②教材・教具の作成、③全体計画・年間指導計画の作成、④評価方法の検討と通知表等の評価例文の作成、を全職員で取り組むことで克服が果たせると考え本主題を設定した。

研究仮説

「考え、議論する」道徳の実践を中心として、意図的・計画的な学習を積み重ねることにより、生徒の道徳的実践意欲が生まれ、道徳教育の充実が図られるだろう。

研究の組織



研究の計画



研究の方向性

- (1) 授業の実践と指導力の向上
 - 1 教材を複数のクラスで実施するローテーション計画の作成と実施
- (2) 教材・教具の作成

考え、議論する場を設けた授業の実践と実践報告書を通じた教材教具の共有
- (3) 全体計画・年間指導計画の作成

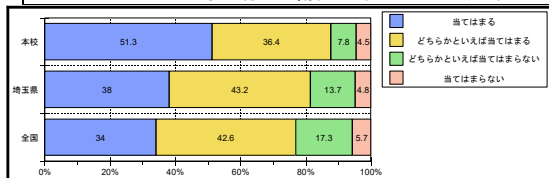
教科化に合わせた全体計画と年間指導計画の再検討と各教科とのつながりを示した別葉の作成
- (4) 評価方法の検討

授業の振り返りシートを活用した生徒の活動の様子記録とそれを踏まえた評価例文の作成

全国学力・学習状況調査、埼玉県学力学習状況調査の結果

○全国学力・学習状況調査 生徒質問紙より

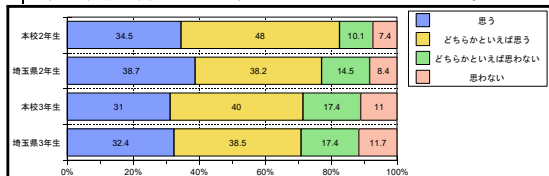
(39) 1、2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループ活動で話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。



昨年度3年生(取り組み始めて2年目)の集計結果であるが、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が87.8%と埼玉県や全国の傾向と比べても数値が高く、本校の取組が生徒にも浸透し、実践されてきていることが表れている。

○埼玉県学力・学習状況調査 生徒質問紙調査より

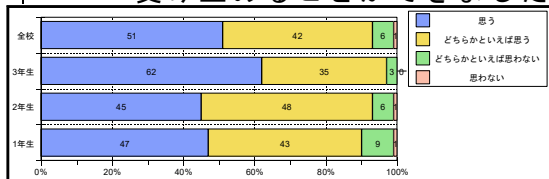
(16) 自分には、よいところがあると思いますか。



この取組を通して自己有用感や自己肯定感が育まれることを期待しているが、昨年度の県学テの質問紙から、このことに関係があると思われる項目では、おおむね良い回答が得られており、埼玉県と同等かそれ以上の数値になっている。

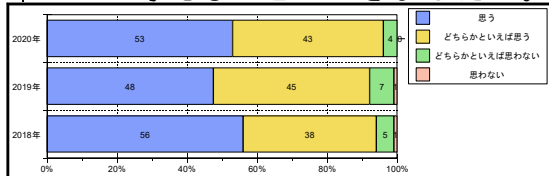
アンケートの結果および分析

問2 道徳の授業では、他者の意見を聞き、自分と違う考え方や感じ方を理解し、受け止めることができましたか。(2020年7月実施アンケート結果から)



考え、議論する道徳を実践するにあたり、他者の意見を聞くこと、それを自分の内側で咀嚼し受け止め、道徳心や実践力を高めることは大きな目的である。全校で93%と高い数値を示していることはよい傾向として捉えることができる。また、学年が上がるにつれ「思う」「どちらかといえば思う」の数値が高い傾向は、高学年ほどより深く考え受け止めることができている結果として読み取ることができる。

問3 道徳の授業では、時と場合や、あらゆる人の立場に立って、色々な角度から考えることができましたか。(3年間のアンケートの現3年生の推移から)



当初から高い数値を示しているものの、学年が上がるにつれ、「思う」「どちらかといえば思う」の数値が微増している。「思う」の数値が伸びていないことは課題ではあるが、高学年ほど取り扱う内容に、より考える観点や心情に深さが増すことも影響があると考える。ローテーションによる授業実践を継続し、生徒のより深い考え方に対応できる指導力を学校全体の課題として伸ばしていきたい。

ローテーションによる授業実践を継続し、生徒のより深い考え方に対応できる指導力を学校全体の課題として伸ばしていきたい。

